



やましん

中小企業景況レポート

山梨信用金庫 経営戦略部
〒400-0032 甲府市中央 1-12-36
TEL 055-225-0213
ホームページアドレス
<http://www.yamasin.jp/>

2020.1.17 発行

■ 調査要領 ■

1. 調査対象
当金庫営業エリア内の取引先中小企業 120社
2. 調査時期・期間
調査時期：2019年12月2日～6日
調査期間：今期実績 2019年10月～12月
来期見通し 2020年1月～3月
3. 調査方法
当金庫職員による訪問聞き取り調査
4. 分析方法
DIを中心に分析

■ 調査対象と回答状況 ■

業種	企業数	回答数	回答率
製造業	31	31	100.0%
卸売業	15	14	93.3%
小売業	15	13	86.6%
サービス業	28	27	96.4%
建設業	23	20	86.9%
不動産業	8	6	75.0%
合計	120	111	92.5%

※ 国中地区 64社、東部地区 29社、相模原市周辺地区 18社

※ DI (Diffusion Index) とは

各質問事項で「良い(増加)」とした企業割合－「悪い(減少)」とした企業割合の構成比との差(判断DI)による分析です。
例えば、回答が以下のような場合のDIの算出方法は、次のとおりです。

(例)「良い・やや良い」の回答が50%、「変わらず」の回答が30%、「悪い・やや悪い」の回答が20%の場合

DIは50「良い・やや良い」－20「悪い・やや悪い」＝+30となります。DI値が高いほど景気が良いことを示しています。

業況判断DI

業種	前期	今期実績			来期見通し		
		良い	悪い	DI	良い	悪い	DI
総合	▲3.6	18.0	26.1	▲8.1	17.1	31.5	▲14.4
製造業	▲32.2	12.9	29.0	▲16.1	19.3	32.2	▲12.9
卸売業	0.0	28.5	14.2	14.3	7.1	28.5	▲21.4
小売業	0.0	30.7	30.7	0.0	23.0	23.0	0.0
サービス業	16.0	18.5	29.6	▲11.1	22.2	29.6	▲7.4
建設業	18.2	15.0	15.0	0.0	15.0	25.0	▲10.0
不動産業	▲40.0	0.0	50.0	▲50.0	0.0	83.3	▲83.3

業種別景気天気図

業種	前期	今期	見通し
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

※本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。また、掲載資料は、正確性・完全性を保証するものではありません。

31以上	11~30	10~▲10	▲11~▲30	▲31以下

概況

<業況・売上・収益>

今期（10～12月）のD Iをみると、業況判断D I（「良い」－「悪い」）は、前期（7～9月）の▲3.6から▲8.1と▲4.5ポイント悪化（前年同期比▲15.1ポイント悪化）となりました。売上D I（「増加」－「減少」）は、5.4から0.9と同▲4.5ポイント悪化（前年同期比▲7.0ポイント悪化）、収益D I（「増加」－「減少」）は▲4.5から▲1.8と同2.7ポイント改善（前年同期比▲9.7ポイント悪化）となりました。

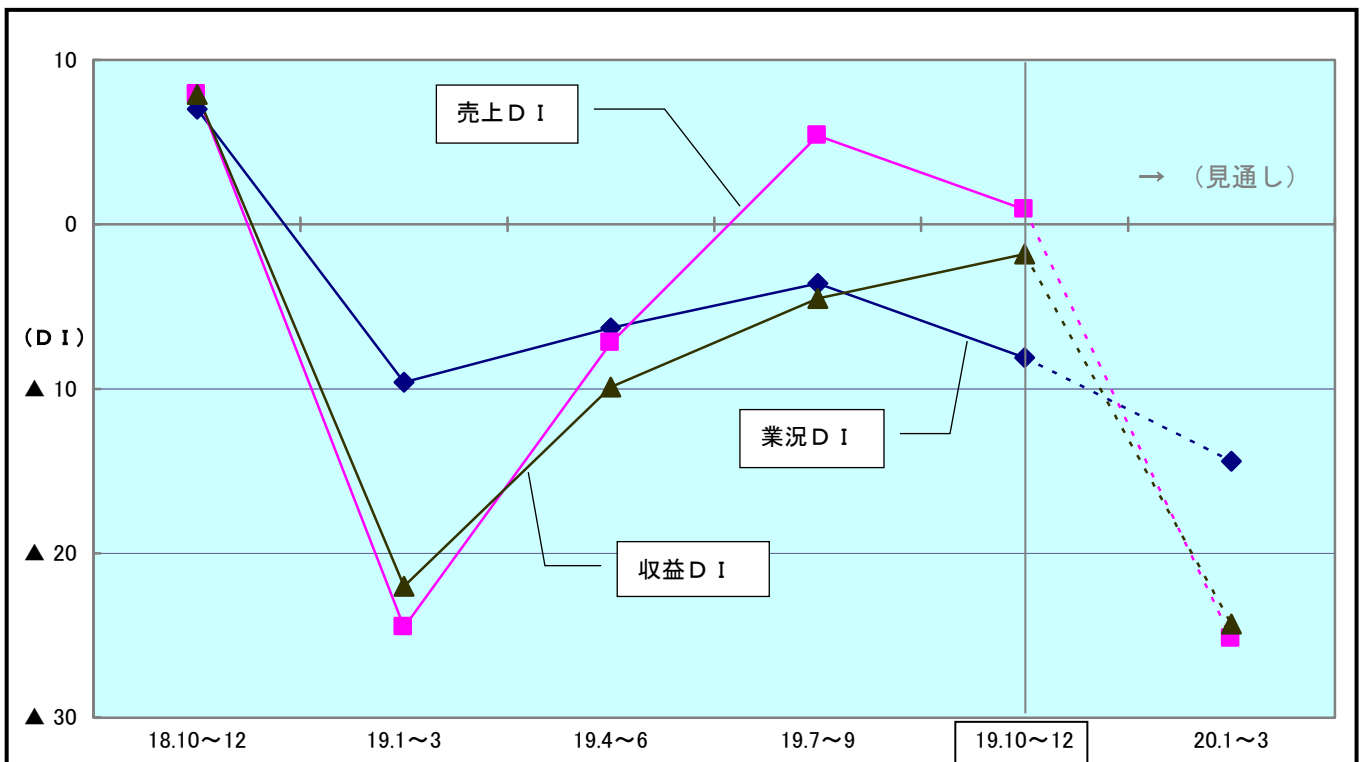
業況D I・売上D Iの悪化については、サービス業・建設業・不動産業が前期比で悪化したことが要因となっています。

収益D Iの改善については、小売業・サービス業・建設業・不動産業が前期比で悪化した一方で、製造業・卸売業で改善したことが要因となっています。

全業種総合の来期見通し（1～3月）をみると、業況D Iは▲8.1から▲14.4と今期実績比▲6.3ポイントの悪化の見通しです。また、売上D Iは0.9から▲25.2と同▲26.1ポイントの悪化、収益D Iは▲1.8から▲24.3と同▲22.5ポイントの悪化が見込まれています。業種別の業況判断D Iは、卸売業・建設業・不動産業で悪化が見込まれている一方で、製造業・サービス業で改善が見込まれています。

■ 業況・売上・収益D Iの時系列推移

	18.10～12	19.1～3	19.4～6	19.7～9	19.10～12	20.1～3 見通し
業況D I	7.0	▲9.6	▲6.3	▲3.6	▲8.1	▲14.4
売上D I	7.9	▲24.5	▲7.2	5.4	0.9	▲25.2
収益D I	7.9	▲22.0	▲9.9	▲4.5	▲1.8	▲24.3



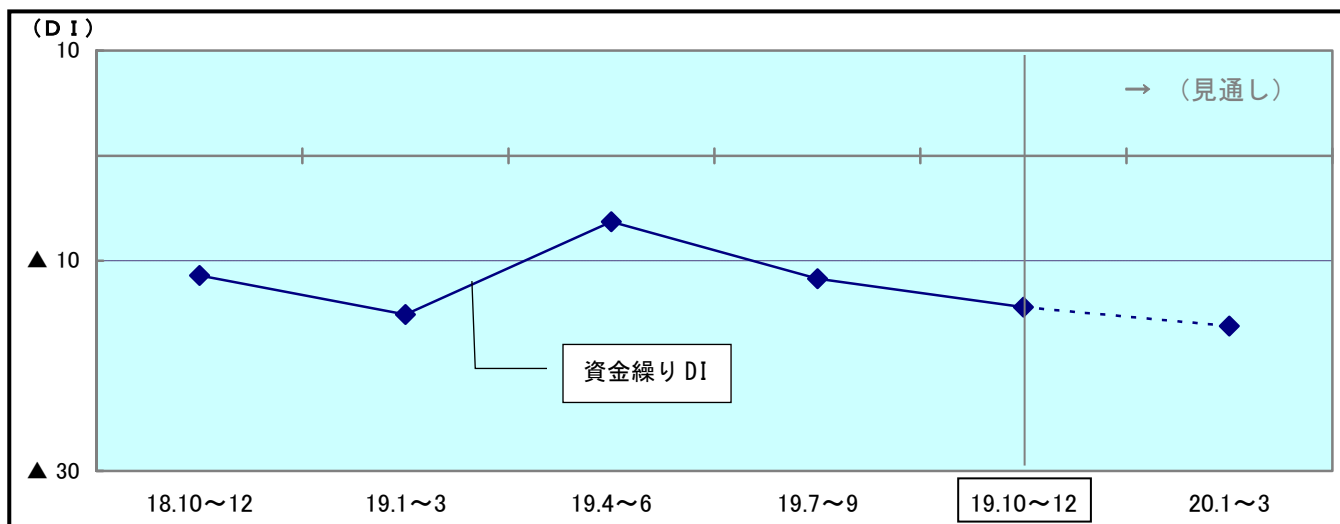
<資金繰り>

資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）は前期（7～9月）の▲11.7から▲14.4と、前期比▲2.7ポイントの悪化となりました（前年同期比▲3.0ポイント悪化）。

また、来期の資金繰りDIは▲16.2と、今期実績比▲1.8ポイントの悪化が見込まれています。

■ 資金繰りDIの時系列推移

	18.10~12	19.1~3	19.4~6	19.7~9	19.10~12	20.1~3 見通し
資金繰りDI	▲11.4	▲15.1	▲6.3	▲11.7	▲14.4	▲16.2



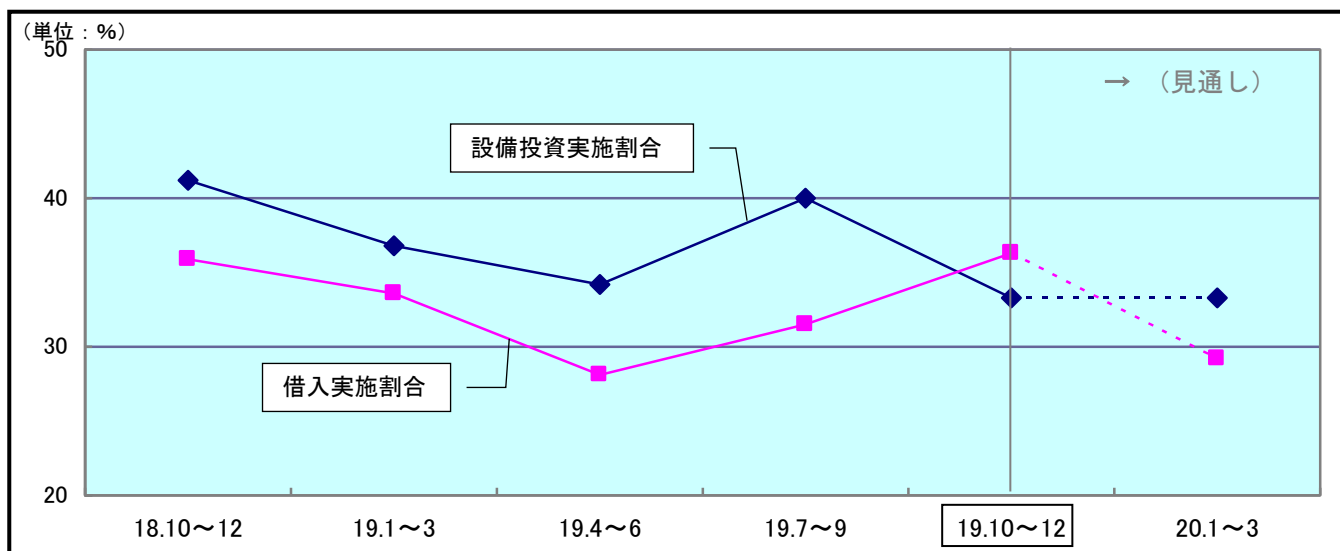
<設備投資・借入動向>

不動産業を除いた設備投資実施企業割合は33.3%と、前期比▲6.7ポイント低下しています（前年同期比▲7.9ポイント低下）。また、来期の設備投資実施予定企業割合は33.3%となっています。

全業種総合の借入実施企業割合は36.3%と、前期比4.8ポイント上昇しています（前年同期比0.4ポイント上昇）。また、来期の借入実施予定企業割合は29.2%と、今期実績比▲7.1ポイントの低下が見込まれています。

■ 設備投資・借入実施動向の時系列推移

	18.10~12	19.1~3	19.4~6	19.7~9	19.10~12	20.1~3 見通し
設備投資実施割合	41.2%	36.8%	34.2%	40.0%	33.3%	33.3%
借入実施割合	35.9%	33.6%	28.1%	31.5%	36.3%	29.2%



【製造業】

【今期】すべてのD Iにおいて、前期（7～9月）比で改善となりました。多くの企業が前回調査に引き続き「売上の停滞・減少」、「利幅の縮小」を経営上の問題点としてあげています。

【来期】業況D Iにおいて、今期実績比で改善が見込まれている一方で、その他すべてのD Iは悪化が見込まれています。当面の重点経営施策としては、前回調査に引き続き「販路の拡大」を掲げる企業がもっとも多く、次いで「経費の削減」となっております。業界全体で新規顧客の確保や、収益を確保していかなければならない状況が窺えます。

■経営上の問題点（ ）内は前回順位

1	売上の停滞・減少(1)	48.4%
2	利幅の縮小(2)	35.5%
3	人手不足(4)	25.8%
	原材料の高騰(4)	25.8%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	58.1%
2	経費の削減(2)	45.2%
3	新製品・技術の開発(2)	25.8%
	人材の確保(4)	25.8%

【卸売業】

【今期】業況D I・売上D I・収益D Iにおいて、前期（7～9月）比で改善となりました。経営上の問題点としては、前回調査に引き続き「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」をあげる企業が多い結果となりました。

【来期】業況D I・売上D I・収益D Iにおいて、今期実績比で悪化が見込まれています。当面の重点経営施策としては、前回調査に引き続き「販路の拡大」、「経費の削減」、「情報力の強化」をあげる企業が多い結果となりました。

■経営上の問題

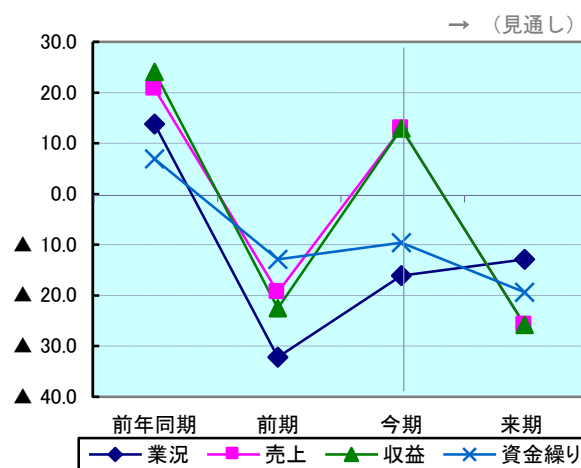
1	売上の停滞・減少(2)	42.9%
2	同業者間の競争の激化(1)	28.6%
3	利幅の縮小(4)	21.4%
	人件費の増加(6)	21.4%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	71.4%
2	経費の削減(1)	50.0%
3	情報力の強化(3)	21.4%

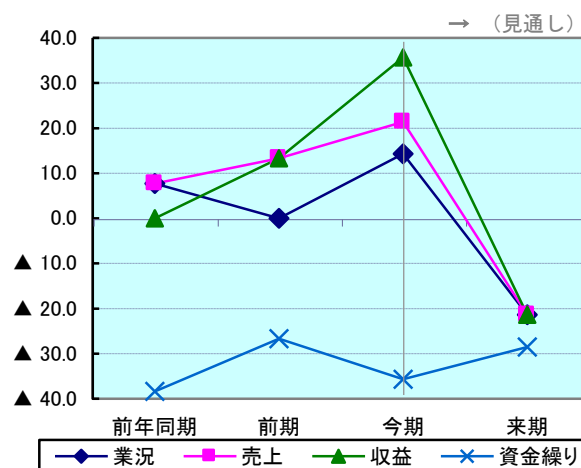
■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	13.8	▲32.2	▲16.1	▲12.9
売上	20.7	▲19.4	12.9	▲25.8
収益	24.1	▲22.5	12.9	▲25.8
資金繰り	6.9	▲12.9	▲9.6	▲19.4



■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	7.7	0.0	14.3	▲21.4
売上	7.7	13.3	21.4	▲21.4
収益	0.0	13.3	35.7	▲21.4
資金繰り	▲38.4	▲26.7	▲35.7	▲28.5



【小売業】

【今期】売上D Iにおいては、前期（7～9月）比で改善した一方で、収益D I・資金繰りD Iは悪化となりました。経営上の問題点としては「売上の停滞・減少」があげられ、また、新たに「大型店との競争の激化」、「人件費の増加」を問題点としてあげています。

【来期】売上D I・収益D Iにおいては、今期実績比で悪化が見込まれています。当面の重点経営施策としては、「経費の削減」がもっとも多く、次いで「品揃えの改善」、「宣伝・広告の強化」をあげており、消費税増税による影響もあり、大型店や他社との差別化を図ることに注力する状況が窺えます。

■経営上の問題点 () は前回順位

1	売上の停滞・減少(2)	30.8%
	大型店との競争の激化(17)	30.8%
	人件費の増加(17)	30.8%

■当面の重点経営施策

1	経費の削減(1)	46.2%
	品揃えの改善(3)	38.5%
2	宣伝・広告の強化(5)	38.5%

【サービス業】

【今期】すべてのD Iにおいて、前期（7～9月）比で悪化となりました。経営上の問題点としては、前回調査に引き続き、多くの企業が「人手不足」、「売上の停滞・減少」を問題点としてあげています。

【来期】売上D I・資金繰りD Iにおいて、今期実績比で悪化が見込まれている一方で、業況D Iは改善が見込まれています。当面の重点経営施策としては、前回調査に引き続き、多くの企業が「人材確保」、「経費の削減」、「販路の拡大」をあげています。

■経営上の問題点 () は前回順位

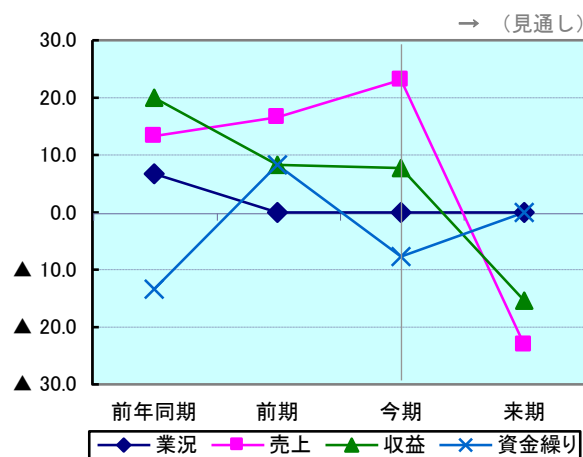
1	人手不足(1)	51.9%
2	売上の停滞・減少(2)	33.3%
3	利幅の縮小(7)	25.9%

■当面の重点経営施策

1	人材の確保(1)	44.4%
2	経費の削減(2)	40.7%
3	販路の拡大(3)	37.0%

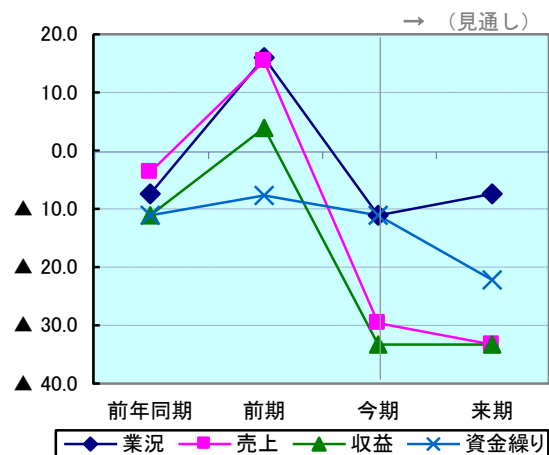
■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	6.7	0.0	0.0	0.0
売上	13.3	16.6	23.1	▲23.1
収益	20.0	8.3	7.7	▲15.4
資金繰り	▲13.4	8.3	▲7.7	0.0



■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲7.4	16.0	▲11.1	▲7.4
売上	▲3.7	15.4	▲29.6	▲33.3
収益	▲11.1	3.9	▲33.3	▲33.3
資金繰り	▲11.1	▲7.7	▲11.1	▲22.2



【建設業】

【今期】すべてのD Iにおいて、前期（7～9月）比で悪化となりました。経営上の問題点としては、「人手不足」がもっとも多く、次いで「材料価格の上昇」、新たに「同業者間の競争の激化」となっております。

【来期】業況D I・売上D I・収益D Iにおいて、今期実績比で悪化が見込まれています。当面の重点経営施策としては、「技術力の強化」、「情報力の強化」をあげる企業が多く見受けられ、同業他社間との差別化を図ることに注力する状況が窺えます。

■経営上の問題点（）は前回順位

1	人手不足(1)	45.0%
2	同業者間の競争の激化(4)	30.0%
	材料価格の上昇(1)	30.0%

■当面の重点経営施策

1	技術力の強化(1)	60.0%
2	経費の削減(3)	45.0%
3	情報力の強化(6)	40.0%
	人材の確保(2)	40.0%

【不動産業】

【今期】業況D I・売上D I・収益D Iにおいては、前期（7～9月）比で悪化した一方で、資金繰りD Iは改善となりました。経営上の問題点としては、多くの企業が「売上の停滞・減少」、「利幅の縮小」をあげています。

【来期】今期実績同様、業況D I・売上D I・収益D Iにおいて、今期実績比で悪化が見込まれている一方で、資金繰りD Iは改善が見込まれています。当面の重点経営施策として、前回調査に引き続き、多くの企業が「情報力の強化」、「販路の拡大」、「経費の削減」をあげており、また、新たに「提携先を見つける」をあげています。

■経営上の問題点（）は前回順位

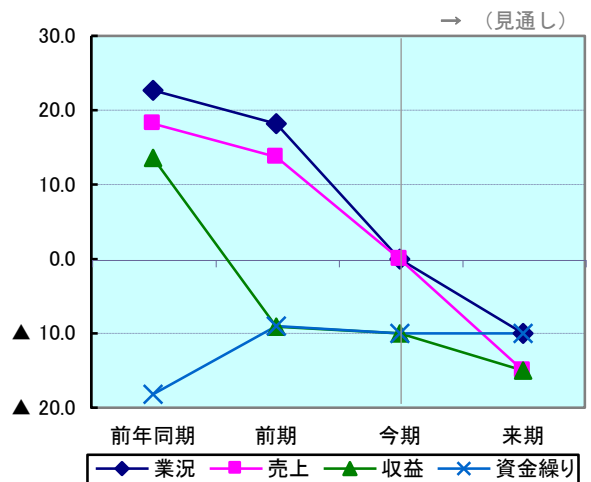
1	売上の停滞・減少(3)	66.7%
	利幅の縮小(2)	66.7%
3	同業者間の競争の激化(5)	33.3%
	商品物件の不足(1)	33.3%

■当面の重点経営施策

1	情報力の強化(1)	83.3%
2	販路の拡大(2)	50.0%
3	経費の削減(3)	33.3%
	提携先を見つける(7)	33.3%

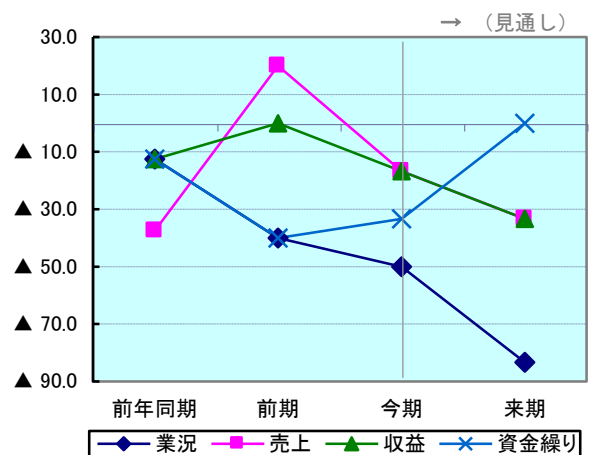
■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	22.7	18.2	0.0	▲10.0
売上	18.2	13.7	0.0	▲15.0
収益	13.6	▲9.1	▲10.0	▲15.0
資金繰り	▲18.2	▲9.0	▲10.0	▲10.0



■主要D Iの推移

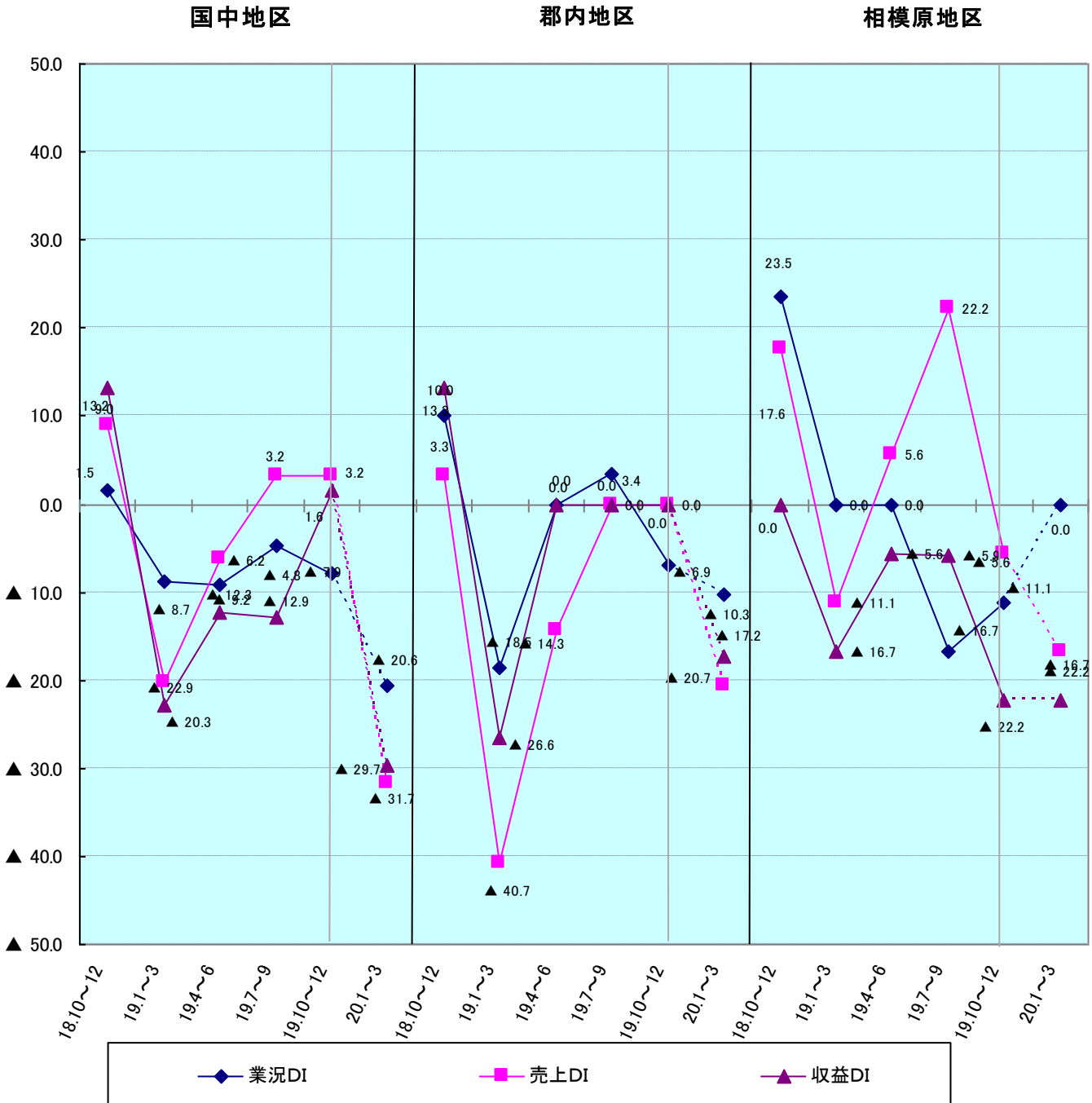
	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲12.5	▲40.0	▲50.0	▲83.3
売上	▲37.5	20.0	▲16.7	▲33.3
収益	▲12.5	0.0	▲16.7	▲33.3
資金繰り	▲12.5	▲40.0	▲33.3	0.0



<地区別D I の状況>

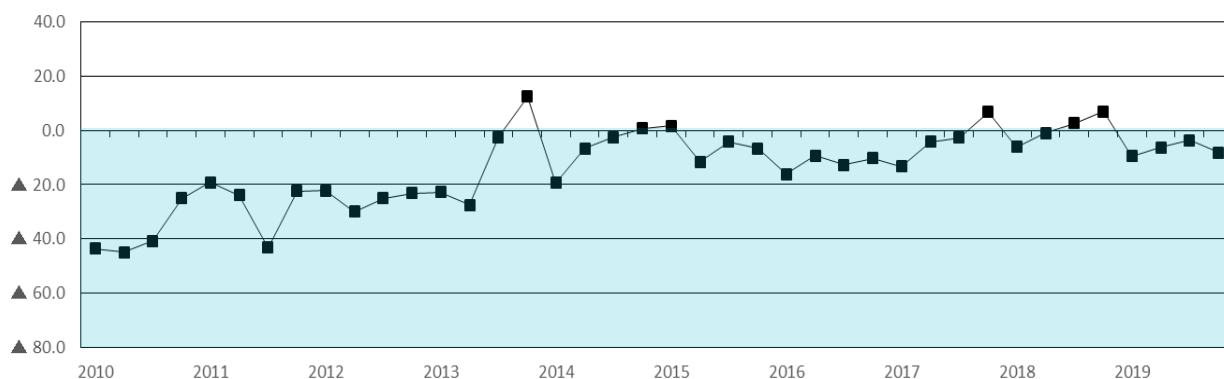
国中地区においては、業況D Iが前期（7～9月）比で悪化した一方で、収益D Iは改善しました。
 郡内地区においては、業況D Iが前期（7～9月）比で悪化した一方で、その他のD Iは同比横ばいとなっています。

相模原地区においては、売上D I・収益D Iが同比で悪化した一方で、業況D Iは改善しました。
 来期の見通しにおいては、国中地区・郡内地区で今期実績比すべてのD Iで悪化が見込まれています。相模原地区においては、売上D Iが今期実績比で悪化が見込まれている一方で、業況D Iは改善が見込まれています。

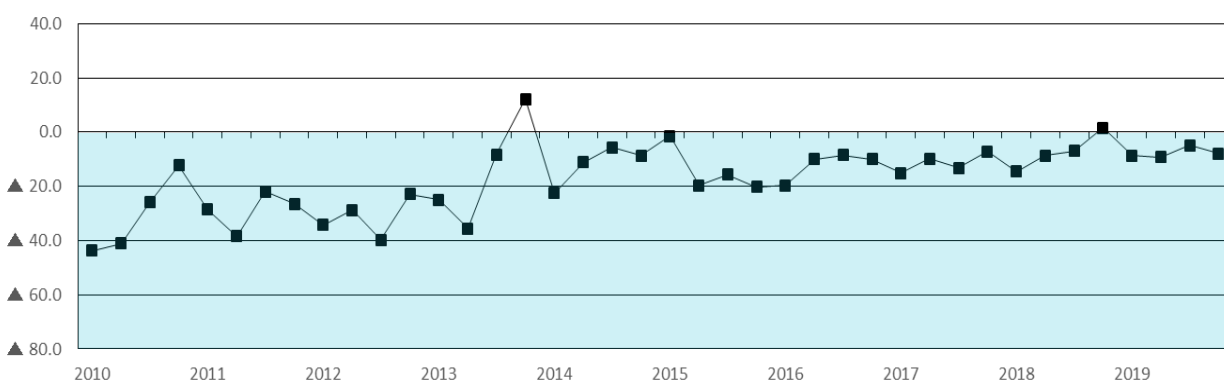


<業況DIの推移状況>

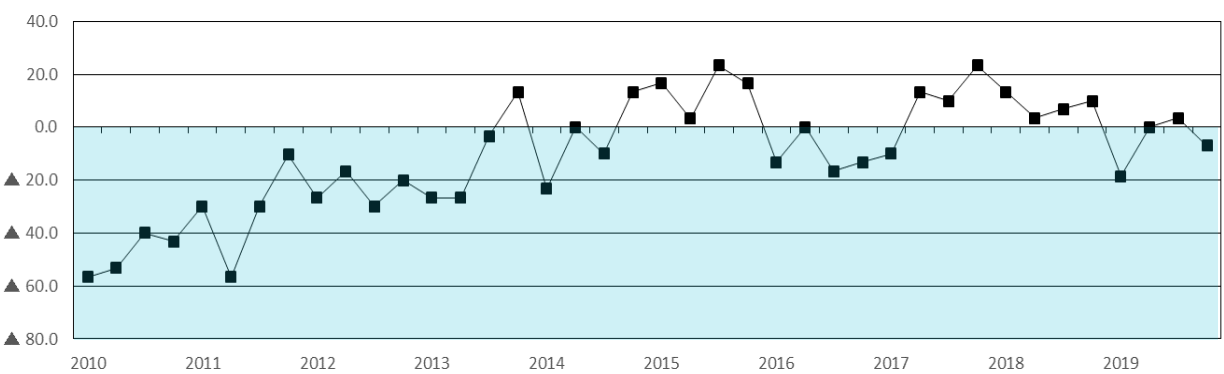
【総合DIの推移】



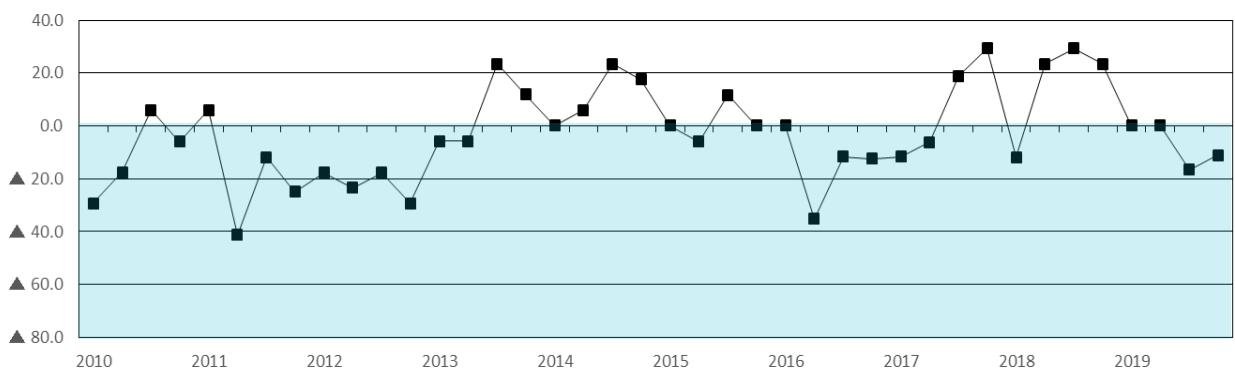
【国中地区DIの推移】



【郡内地区DIの推移】



【相模原地区DIの推移】

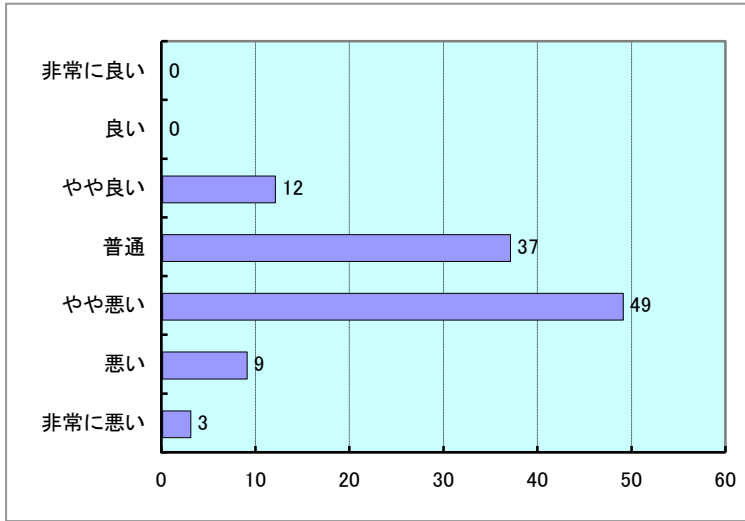


「2020年（令和2年）の経営見通し」

◆貴社では、2020年の日本の景気をどのように見通していますか。（回答企業：110社）

【2020年の景気の見通し】

(単位：社)

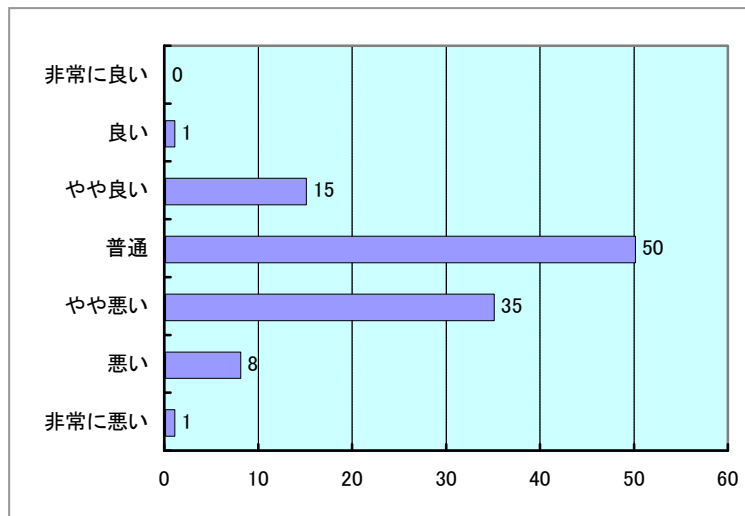


(単位：%)

	2020年 見通し	2019年 見通し	2018年 見通し
良い(A)	10.9	23.0	18.9
非常に良い	0.0	0.0	0.0
良い	0.0	3.7	4.3
やや良い	10.9	19.3	14.6
普通	33.6	48.6	54.3
悪い(B)	55.4	28.5	26.7
やや悪い	44.5	24.8	18.1
悪い	8.2	2.8	8.6
非常に悪い	2.7	0.9	0.0
DI(A)－(B)	▲44.5	▲5.5	▲7.8

【2020年の自社の景気の見通し】

(単位：社)



(単位：%)

	2020年 見通し	2019年 見通し	2018年 見通し
良い(A)	14.5	18.4	19.9
非常に良い	0.0	0.0	0.9
良い	0.9	4.6	5.2
やや良い	13.6	13.8	13.8
普通	45.5	54.1	56.8
悪い(B)	40.0	27.6	23.3
やや悪い	31.8	23.9	19.0
悪い	7.3	3.7	4.3
非常に悪い	0.9	0.0	0.0
DI(A)－(B)	▲25.5	▲9.2	▲3.4

2020年の日本の景気見通しについては、『良い』（「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計）との回答が10.9%、『悪い』（「やや悪い」・「悪い」・「非常に悪い」の合計）との回答が55.4%となり、「良い(A)－悪い(B)」は▲44.5となりました。1年前の調査比で▲39.0ポイント、2年前の調査比で▲36.7ポイント悪化しています。

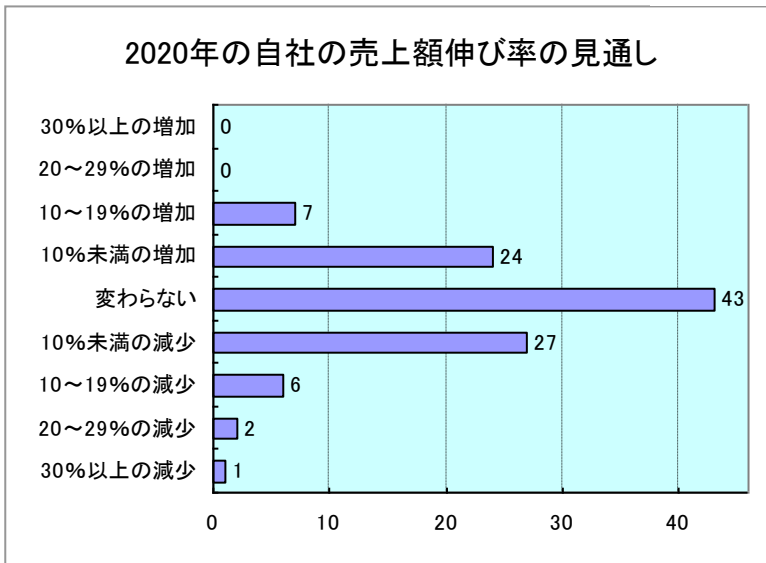
2020年の自社の業況（景気）の見通しについては、『良い』（「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計）との回答が14.5%、『悪い』（「やや悪い」・「悪い」・「非常に悪い」の合計）との回答が40.0%となり、「良い(A)－悪い(B)」は▲25.5となりました。1年前の調査比で▲16.3ポイント、2年前の調査比で▲22.1ポイント悪化しています。

1年前、2年前の調査と比較して日本の景気見通し、自社の景気見通しは、低調な様子が見受けられます。また、2020年の日本の景気、自社の見通しについて『悪い』（「やや悪い」・「悪い」・「非常に悪い」の合計）と回答したもっとも割合の高い業種は、建設業でした。

◆2020年において貴社の売上額の伸び率は、2019年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。

(回答企業:110社)

(単位:社)



(単位:%)

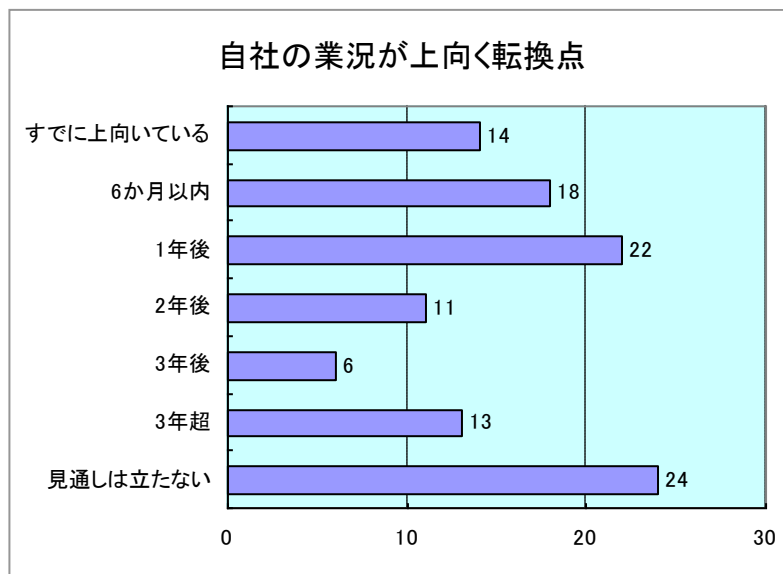
	2020年 見通し	2019年 見通し	2018年 見通し
増加(A)	28.2	36.7	43.2
30%以上	0.0	2.8	0.9
20~29%	0.0	0.9	2.6
10~19%	6.4	6.4	12.1
10%未満	21.8	26.6	27.6
変わらない	39.1	39.4	34.5
減少(B)	32.7	23.9	22.4
10%未満	24.5	19.3	15.5
10~19%	5.5	0.9	6.0
20~29%	1.8	3.7	0.9
30%以上	0.9	0.0	0.0
DI(A)-(B)	▲4.5	12.8	20.8

2020年の自社の売上額の伸び率の見通しは、「増加(A)」が28.2%、「減少(B)」が32.7%となり、「増加(A)-減少(B)」は▲4.5となりました。1年前の調査比で▲17.3ポイント、2年前の調査比で▲25.3ポイント悪化しています。

1年前、2年前の調査と比較して自社の売上額伸び率の見通しは、低調な様子が見受けられます。また、2020年の自社の売上額の伸び率の見通しについて(『減少』(「10%未満」・「10~19%の減少」・「20~29%の減少」「30%以上の減少」の合計)と回答したもっとも割合の高い業種は、建設業でした。

◆貴社では、自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。

(単位:社)



(回答企業:108社)

(単位:%)

	2020年 見通し	2019年 見通し	2018年 見通し
すでに上向き	13.0	25.7	21.9
6か月以内	16.7	11.0	12.3
1年後	20.4	10.1	23.7
2年後	10.2	12.8	8.8
3年後	5.6	7.3	5.3
3年超	12.0	4.6	9.6
見通しは立たない	22.2	28.4	18.4

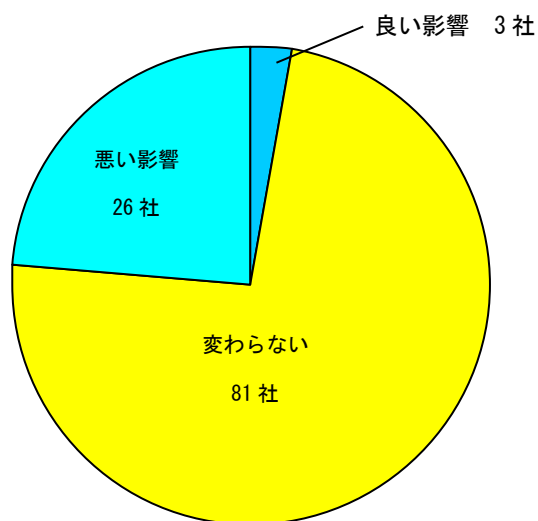
業況が上向き転換点となる時期は、「すでに上向いている」、「6か月以内」、「1年後」のいずれかを回答した企業は50.1%となり、1年前の調査比で3.3ポイント増加しています。業種別にみると、小売業、次いで製造業が1年以内に転換点を迎えるとの回答がありました。

「見通しは立たない」と回答した企業が22.2%となり、1年前の調査比で6.2ポイント改善しています。業種別にみると、建設業、次いでサービス業が業況の見通しに不透明感を感じていることが窺える結果となりました。

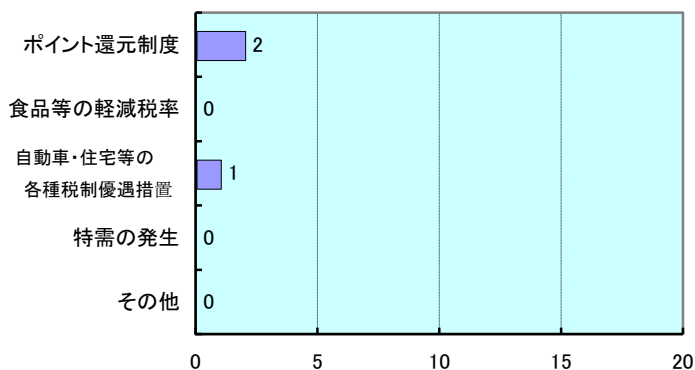
◆10月以降の貴社の経営は、消費税率引上げ前の見通しと比べて、どのような影響を受けていますか。

(回答企業:110社)

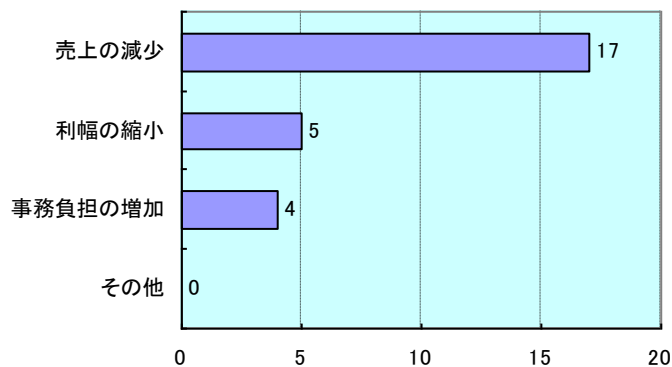
【消費税率引上げ前の自社の経営見通しとの比較】



見通しより良い影響



見通しより悪い影響



10月以降の自社の経営について、消費税率引上げ前の経営見通しと比べ、「変わらない」との回答が全体の73%ともっとも多く、次いで「見通しより悪い影響」との回答が23%、「見通しより良い影響」との回答が全体の2%にとどまる結果となりました。

全体的にみると、増税前の経営見通しどおりの企業が多数を占める結果となりましたが、それでも全体の15%は「売上の減少」が想定以上と回答しており、増税の影響の大きさを窺えます。

また、見通しより悪い影響と回答した業種は、不動産業、次いで小売業が高い割合となりました。

調査員のコメント

製造業

- 中国の国内景気減速が受注先企業の売上減少に影響し、内製化が進んだことで仕事の受注に苦戦している。(光通信デバイス)
- 若い人材を積極的に雇用し、技術や経験等、人材教育に注力している。今後、機械の老朽化に伴い借入を検討しているとのこと。(金属加工)
- 人手不足による業務効率化および、設備投資が必要であるが、景気の動向が不透明なため、設備投資に踏み切れないでいる。(アルミ製品)
- 県外に営業職を常駐させ新規取引先確保に努めている。売上高は増加傾向にあるが、一方で経費も増加しているため利益確保のための施策が必要となる。(医療レーザー)

卸売業

- 大幅な売上の増加は見込めないものの、業況は安定している。販路の拡大が課題である。キャッシュレス化に伴い決済手段の拡充、整備を進めている。(包装資材)
- 近隣の同業者が廃業したこともあり、売上高が増加。(精肉)

小売業

- ミドル層以上の婦人服を主に販売しているが、売上減少傾向にある。品揃えを見直し、お客さまへの声掛けや広告、宣伝等に企業努力している。(婦人服、衣料販売)
- 消費税増税後、新車販売の売上が伸び悩む同業者がいる中、顧客へのサービス向上や軽減税率の周知に企業努力したことにより売上高は増加傾向にある。(車販売)

サービス業

- 新規取引先が増えず、売上高が停滞している。販路拡大が課題であり、宣伝・広告等を強化していく。(清掃・警備・産業廃棄物収集運搬)
- 10月の台風による影響で、宿泊キャンセルに伴い資金繰りが悪化している。(旅館)

建設業

- 技術力が高く即戦力となる人材として中途採用を積極的に行い、OJTによる新人教育を行う等、人材力の強化に力を入れている。(電気配線工事)
- 東京オリンピック終了後の景気の反動が危惧され、来年以降の業況の見通しは不透明とのこと。(建設)
- 消費税増税による影響は特にはないが、公共工事を主に営業しているため、今後の工事受注に不安感がある。(土木工事)

不動産業

- 増税後の問合せが少なくなってきており、今後、中古物件の問合せが増えてくる見込みである。(不動産売買・仲介)
- 今年は、住宅販売が低調であり、来年は住宅だけでなく事業用地についても注力していく。(建設・不動産販売)

☆山梨県、神奈川県(相模原地区)トピックス(1~3月期)

1月

河口湖冬花火(開催日:1月18日~2月23日までの土曜・日曜)

⇒1月18日から2月23日までの土曜・日曜の計12回、澄み切った冬の夜空を彩る打ち上げ花火「河口湖冬花火」が行われます。打ち上げ時間は午後8時から午後8時20分。近くのホテルや旅館で冷えた身体をゆったり温泉で温めるのもおすすめです。

【交通アクセス】会場:河口湖畔大池公園(南都留郡富士河口湖町船津6713-2)
河口湖ICより約20分

西湖樹氷まつり(開催日:1月25日~2月16日)

⇒西湖野鳥の森公園で行われる氷の祭典「樹氷まつり」では、凜と澄んだ大気の中で大自然が生んだ芸術を堪能することができます。

【交通アクセス】会場:西湖野鳥の森公園(南都留郡富士河口湖町西湖2068)
河口湖駅よりバスで約30分
河口湖ICより約20分

2月

甲府市 塩澤寺厄除地蔵大祭(開催日:2月13日~14日)

⇒毎年2月13日正午から翌14日正午までの24時間開催され、5万人以上の人々が訪れ露店が並び終日賑わいます。厄年の男女が、年の数だけ1円玉やあめ玉などの丸い物をお地蔵さんにお供えすると、厄を免れるといわれ、お地蔵さんは県の文化財にも指定されています。

【交通アクセス】会場:塩澤寺(甲府市湯村3-17-2)
甲府駅よりバスで約20分
甲府昭和ICより約20分

甲府市 春の山梨県地場産業まつり(開催日:2月下旬)

⇒山梨県の名産品が大変お得にお買い物のできるほか、会場ではジュエリーリフレッシュコーナー、ブレスレット作りなどの体験コーナーや、屋外グルメ屋台など盛りだくさんの内容となっております。

【交通アクセス】会場:地場産業センターかいてらす(甲府市東光寺3-13-25)
酒折駅より徒歩約15分
善光寺駅より徒歩約15分
甲府駅よりバス約10分
甲府昭和ICより約25分

3月

津久井城まつり(開催日:3月1日)

⇒戦国時代のお城だった城山で、津久井地域の歴史をテーマにしたお祭りを開催。甲冑劇や狼煙上げデモの他、鉄砲衆による発砲演技なども行います。

【交通アクセス】会場:津久井湖城山公園 根小屋地区パークセンター周辺(相模原市緑区根小屋162)
相模原ICより車で約5分

窟観音祭（あなかんのまつり）（開催日：例年3月20日前後）

⇒ 峡北地域に春を告げる祭として知られ、お稚児さん行列や、多くの露店が並び大勢の人で賑わいます。祭典中、窟観音御堂内は、年に一度の観音様ご開扉となります。

【交通アクセス】会場：韮崎市雲岸寺（韮崎市中央町11-2）

JR中央本線「韮崎駅」から徒歩約5分

韮崎ICより車で約10分

富士川町大法師公園さくら祭（開催日：例年3月28日頃、桜の開花状況に合わせ開催）

⇒ 全山約2,000本の桜が咲き、大法師公園内からは甲府盆地や富士山、八ヶ岳が一望できます。日本のさくら100選に選ばれ、夜には桜のライトアップが行われます。

【交通アクセス】会場：大法師公園（南都留郡富士川町鯉沢2175）

鯉沢口駅より徒歩で約40分

甲府南ICより車で約40分

編集後記

令和2年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

このたびの中小企業景気動向調査においては、お忙しい中、ご協力賜りまして誠にありがとうございました。

今回の調査では、総合で前期（7～9月）比が業況DI・売上DI・資金繰りDIで悪化しましたが収益DIでは改善に転じました。特に卸売業については前期比、前年同期比で業況DI・売上DI・収益DIが改善されましたが一方で、サービス業、建設業については前期比、前年同期比で業況DI・売上DI・収益DIが悪化と低調な状況が窺える調査結果となりました。

特別調査では「2020年（令和2年）の経営見通し」と題し、調査をいたしました。調査の結果、消費税引上げの影響が当初の想定どおりと回答した企業が多かったものの、2020年の日本の景気の見通し、自社の景気の見通しは、1年前、2年前と比較して低調な見通しであると感じる企業が多い結果となりました。

また、2020年については、東京オリンピック・パラリンピックが開催となり、多くのお客さまをはじめ、日本経済全体が大きく影響を受けることが予想されます。

当金庫としても、今後とも地域の皆さまのお役に立てるよう様々なニーズに応じた商品・サービス提供や各種支援制度等の情報提供に一層努めてまいります。お取引先の事業者が抱える様々な課題に対し、積極的に支援してまいりますので、お気軽に営業店または担当者までご相談ください。

また、山梨県、神奈川県（相模原地区）の情報やイベント等を掲載しております。近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。